

評価シート 様式

取組名	鳥取駅前・賑わいのまちづくり実証事業		
実施団体名	鳥取市中心市街地活性化協議会	対象地域	鳥取県鳥取市中心市街地(鳥取駅周辺地域)
(代表団体名)	財団法人鳥取開発公社	推薦団体名	
① 実施 状況	提案書に記載された取組内容について、当初の計画通り実施されているか		平成20年度に行われた取組の実施体制について
	<input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組を適切に実施したと判断される。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断される。
	<input checked="" type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部が未実施となっている。但し、予定した主要な取組は適切に実施したと判断される。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断されるものの、改善の余地が認められる。
	<input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部又は全部が未実施となっており、特に主要な取組が実施されていない。 (備考・特記事項)		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、主体的に実施されたと判断できない。 (備考・特記事項)
③ 効果	平成20年度に行われた取組の当初目標の達成状況について		平成20年度に行われた取組の継続展開の見込みについて
	<input checked="" type="checkbox"/> 当初設定した目標を達成し、実施した取組が予定していた成果をあげたと認められる。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り又は発展的に継続展開が予定され、持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。
	<input type="checkbox"/> 当初設定した目標の達成には至らないものの、実施した取組が予定していた成果の一部又は全部をあげたと認められる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画とは一部異なるものの、取組方法の改善等により持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。
	<input type="checkbox"/> 実施した取組が当初の目標の達成に至らず、予定していた成果をあげることができなかつたと認められる。 (備考・特記事項) 目標の一つとした歩行者自転車通行量はH19年の9,400人/日から17,200人/日と目標(H19の10%増)を大幅に上回った。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り持続的・効果的に取組が進捗するとは見込まれない。 (備考・特記事項)
		② 実施 体制	④ 継続 展開 の見 込み

※①において「申請時に予定した取組とは異なる取組が行われた」場合や、③において評価シート作成時点で成果を把握できない場合など、留意事項がある場合に「備考・特記事項」欄に記載する。

評価シート 様式

取組名	鳥取駅前・賑わいのまちづくり実証事業		
実施団体名	鳥取市中心市街地活性化協議会	対象地域	鳥取県鳥取市中心市街地(鳥取駅周辺地域)
(代表団体名)	財団法人鳥取開発公社	推薦団体名	

⑤ 総合評価	○ 複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果に関する所見
	○先導性・モデル性 衰退した中心市街地でのセミランジットモール化にあたり地場のロール芝を活用した空間の創出は国内でも例がなくモデル性のある取組と評価できる。
	○相乗効果・波及効果 取組対象外地域においても取組とあわせた活動を行う団体の出現や鳥取市民の約半数が取組に参加するなど相乗効果・波及効果が高い取組として評価できる。
	○ 評価
	<input type="checkbox"/> ①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」の全てにおいて評価が高く、「地方の元気再生事業」の趣旨に鑑みて優れた取組であると評価できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であると評価できる。ただし、①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」のいずれかについて改善の余地が認められる。 <input type="checkbox"/> ①～④のうち1以上の項目で評価が低く、「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」においても特筆すべき点が認められず、「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であるとは評価できない。
	(評価の考え方及び次年度以降に向けた所見)
	本取組は、休日に全く人が集まらなかった中心市街地に交通の流れを見直すことで人々が集い楽しめる空間を創出するという取組であり、中心市街地の道路の役割見直しにつなげることにより他地域で例を見ない中心市街地活性化モデルを構築しつつある点が高く評価できる。以下に留意しつつ地方の元気再生事業として支援を行うことにより継続的な展開が期待できるものである。
	次年度以降については、事業の本格展開に向けて、ランジットモール事業の運営・管理手法の確立が最大の課題であると考えられるため、それらの視点を踏まえた取組の深化及びルールづくりに特化して取組を行うべきである。 具体的には、取組①「エリアを拡大した道路空間活用等の実証事業」については、事業の本格実施の準備である各種調査は実施予定の主体が実施し、本事業では実証実験にとどめるべきである。取組③「来訪者の回遊性向上」については、基幹となる取組との関連性も薄いいため、当事業での実施はその要否も含めて抜本的に見直すべきである。